会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 子ども・子育て会議
開催日時	令和6年5月9日(木) 14時00分 開会 ・ 16時15分 閉会
開催場所	川越市役所 本庁舎7階 第1・第5委員会室
議長(委員長・会長)氏名	平野方紹会長
委員出欠状況	出席：14名 今野委員、松本委員、中田委員、小寺委員、影山委員、井守委員、有光委員、山田委員、山本委員、堀口委員、鈴木友子委員、榎本委員、近藤委員、 欠席：5名 鈴木副会長、田村委員、長峰委員、福木委員、春原委員
傍聴人	0人
事務局職員職名	こども未来部長、こども未来部副部長(こども政策課長)、こども育成課長、こども育成課副課長、こども家庭課長、こども家庭課副課長、保育課長、保育課副主幹、母子保健課長、療育支援課副課長、児童発達支援センター所長、教育財務課副参事、教育センター副主幹、こども政策課副課長、こども政策課副主幹、こども政策課主査、こども政策課主任
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 議題 (1) (仮称)川越市こども計画策定に向けて実施した調査について (2) (仮称)川越市こども計画策定に関する諮問について (3) (仮称)川越市こども計画の策定について 4 報告 (1) こども家庭センターの設置について (2) 川越市保育ステーションにおける送迎保育事業・一時預かり事業の見直しについて 5 その他 6 閉会

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・（仮称）川越市こども計画策定に向けて実施した調査について ・・・（資料 1） ・（仮称）川越市こども計画の策定概要について（案） ・・・（資料 2-1） ・（仮称）川越市こども計画を取巻く計画について ・・・（資料 2-2） ・川越市こども計画策定の方向性とこども・若者の意見の 政策反映について ・・・（資料 2-3） ・全ての子育て家庭を対象とした保育の拡充 ～「こども誰でも通園制度（仮称）」の創設～ ・・・（参考資料1） ・自治体こども計画策定のためのガイドライン【概要版】 ・・・（参考資料 2） ・こども・若者の意見の政策反映に向けた ガイドライン【概要版】 ・・・（参考資料3） ・埼玉県こども計画（仮称）の骨子案イメージ ・・・（参考資料 4） ・川越市こども家庭センターの設置及び運営開始について ・・・（資料 3） ・川越市保育ステーションにおける送迎保育事業・ 一時預かり事業の見直しについて ・・・（資料 4） ・諮問書（写） ・・・（机上配布資料） ・市長からの諮問に対する検討について（写） ・・・（机上配布資料）
会議要旨	<p>3 議題 分科会開催に先立ち、事務局より、令和6年4月25日付けで就任された有光委員について紹介があり、同委員より挨拶があった。</p> <p>(1) （仮称）川越市こども計画策定に向けて実施した調査について ・調査結果については、各委員からの意見を踏まえつつ、計画を策定していく中で引き続き、議論していくこととなった。</p> <p>(2) （仮称）川越市こども計画策定に関する諮問について ・川越市長から川越市社会福祉審議会委員長宛の（仮称）川越市こども計画策定に関する諮問及び同審議会委員長から本分科会会長への当該諮問への検討依頼を受け、本分科会において正式に計画策定に向けて議論していくこととした。</p> <p>(3) （仮称）川越市こども計画の策定について ・川越市こども計画策定の概要、こども・若者への意見聴取の概要について概ね承認され、事務局は、委員の意見を踏まえて準備を進め</p>

	<p>ることとなった。</p> <p>4 報告</p> <p>(1) こども家庭センターの設置について</p> <ul style="list-style-type: none">・事務局より、本年4月1日より運営を開始したこども家庭センターについて報告があった。 <p>(2) 保育ステーションにおける送迎保育事業・一時預かり事業の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none">・事務局より、本分科会においてこれまで議論を行ってきた保育ステーション事業について、検討状況の報告があった。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none">・事務局より、第2回及び第3回分科会の開催日時及び会場について案内があった。なお、第2回分科会は7月2日（火）14時、第3回分科会は8月9日（金）14時で、会場は両日ともに第1・第5委員会室を予定しており、日程が近づき次第、事務局より改めて正式な開催通知を発出するとした。 <p>5 閉会</p>
--	---

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長	<p>※本資料では以下のように表記する。 川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 (川越市子ども・子育て会議) → 分科会</p> <p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 議題</p> <p>[議題(1)] (仮称)川越市こども計画策定に向けて実施した調査について 事務局より資料1に基づき、説明を行った。 説明内容の概要は以下のとおり。</p> <p>(資料1) (仮称)川越市こども計画策定に向けて昨年度実施した各種アンケート調査の結果について、回答率や対象数等の概要に加え、今回の調査より新規で実施した「若者の意識と生活に関する調査」等の一部の回答をまとめたデータについて結果概要として事務局より説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答率が過去の調査と比較して下がったのは事実ではある。しかし、特に小学生や中学生を対象とした調査において、過去の調査では学校を通して調査票の配布及び回収していたということもあり、回答率は高かったものの、先生に回答を見られるのではないかという意識が働いていた可能性があった。今回の調査では、回収において学校を通さないことによって、子ども本人や保護者の本音を聞くことができたという側面がある。 ・第3部の「若者の意識と生活に関する調査」は今回初めて実施したが、調査報告書内の「2. 回収結果」を見ると、約3,000人に調査票を配布し、回答率は22.1%であった。注目すべきはWEB回答が回答数全体の3分の2を占めているということである。これは、昨年度委員の皆さんからの、若者はWEBでないと回答しないとの意見により、WEB回答を含めることとしたが、皆さんの意見が大変有効であったことがわかった。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人的な感想ではあるが、調査報告書内に「平日の夕食を一緒に食べる人」についての結果が掲載されており、小学5年生で4%程度、中学2年生になると約20%、16～17歳の生活困窮層だと36.4%ものこどもが平日の夕食をひとりで食べていることがわかり、これが現実なのかと胸が痛むような数値だと感じた。 ・ 調査の実施にあたっては試行錯誤の部分もあったが、一定の実態を映し出すことができたと思う。 ・ 母子生活支援施設は母子が入所して自立を目指す施設であるため、母子が入所して終わりではなく、地域の中で母親とこどもが生活していくための支援をとともに考えながら行っている。調査結果を見て、入所している母子が感じている課題と重なっている部分もあると感じた。 ・ ひとり親の多くに、フルタイムで働きたくてもなかなか働けない現状があり、子育てと仕事とでどのようにバランスを取っていくのか悩んでいる家庭が非常に多いという印象を受けている。 ・ その中で、こどもの居場所をどのように確保していくのかは、川越市を子育てしやすい市にしていく上でも、非常に大事なことだと日々痛感している。母子への支援を行っている中で、外部の資源を紹介したいが、金銭面の問題がある等でマッチせず、うまく繋ぐことができていない。今回のアンケートを通じて、こどもの居場所に関する施策が進むとよいと期待している。 ・ 資料1の8頁に記載のとおり、小学5年生と中学2年生の生活困難層の割合は、5年前と比較して低くなったとのことで、何かしらの要因があったのだと思う。一方で、16～17歳の困窮層の割合が5年前と比較して高くなっているということは、5年前の調査時に小学5年生だった子が、そのまま15～16歳になったから困窮層の割合が減っていないという認識なのか。もしそうだとすると、この5年間の間に何かしら改善ができなかったのかと感じた。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査結果については数値を含め、分析しているところである。御意見のあった5年間の経年変化の中で、貧困層がそのまま貧困層のままである可能性についても併せて分析したい。 ・ こどもの居場所についてあった御指摘について、現在、教育委員会と連携し、市民センターや川越駅東口児童館のフロアの空きスペース等を活用して、中学生や高校生が勉強できるようにする等、居場所の整備を進めている。音楽やスポーツができるスペースを直ちに確保することは難しいが、中央図書館3階の読書室のような勉強スペースを一部地域で展

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	<p>開しており、これをもう少し横展開できるよう、教育委員会と更に連携して進めていきたいと考えている。</p> <p>新しい居場所をどのように作っていくかということも議論になると思うが、既存のもので、素晴らしい資源もたくさんあるので、それをどのように拡充していくのか、どのように作り変えていくのかという点も議論の1つとして進めていただけると良いと思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の回答率は高いとは言えず、今後計画を策定していく上で、アンケートに回答しなかった人たちのニーズが気になる。もちろん回答が面倒だったということもあるかもしれないが、このようなアンケート調査に回答することが難しい人が、実際どのようなニーズを持っているのかということをはっきり意識しなくてはいけないと思う。 ・今回初めて実施した若者へのアンケート調査は、回答率が22.1%とのことだが、私としては想定していた以上に回答があったのではないかなと思う。市としては、元々どの程度の回答率を想定していたのか、市の感触を教えてください。 ・今回のような膨大なアンケートを取ると、報告において1つ1つの項目を丹念に見ていくのは最初だけであって、どうしても時間が経つにつれてまとめた意見や課題という形で、資料1のような概要版が共有されていくものだと思う。一方で、概要版の1つ1つの項目を読んでいくと、ある価値観から見たらそれは課題かもしれないが、本当にそれは課題なのだろうかというものも課題として挙げられていると感じた。例えば、「年齢が上がるとともに、放課後に家でひとりで過ごす子どもの割合が高くなる」ということが課題として挙げられているが、これは、そのような選択もできるようになったという意味に取ることもできるのではないかなと思う。そのため、今回の概要に、今後の議論が引っ張られていくということに気を付けなくてはいけないと感じる。 ・結婚にネガティブな印象を持つ若者がいると記載されていたが、結婚にネガティブな印象があるから、結婚したくないわけではないと思う。生き方が多様になっており、結婚することは素敵なことだが、自分には当てはまらないということもある。若者の中で価値観の多様性が広がっている中で、従来の価値観の中で、結婚したくないからネガティブであるというように、これから計画を策定していく上でも、従来型の発想に引っ張らないように気を付けなければならないと感じる。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回のアンケートで意見を出せなかった、または出さなかった人たちの意見をどのように拾うかについて、今後、WEBアンケート等を実施することを検討している。なお、明後日（5月11日（土））に、青年会議所が企画するイベントに市の職員も参加し、アンケート調査を行う予定である。また、コンサルタントからの提案で、世代別の意見聴取についても、検討しているところである。 ・ 委員の御意見のとおり、フォーマルな形でのアンケートに答えづらい人たちに、こちらから意見を聞きに行く姿勢も大切だと思う。できる限りあらゆる角度から、積極的に意見を聞きに行けるような環境を作っていきたいと思う。 ・ 若者対象アンケートの回答率への市の認識について、あくまで個人的な所感となってしまうが、今回、若者を対象とした調査を実施した経緯として、これまで川越市において若者から意見を聞いてこなかったという反省がある。そのため、回答率は十数%程度ではないかと思っていたが、職員をはじめ、市側で意見を集める環境づくりに努めた結果、20%を超えることができたと考えている。 ・ 調査結果の概要について、昨年度も委員よりアンケート調査票のワーディングによるミスリードがないようにとの御指摘をいただいたと記憶している。今回、概要を作成するにあたって、400頁を超える調査結果報告書からそのまま引っ張ってきただけでなく、事務局で分析した内容も包含したものとなっている。そのような主観が企画・政策をミスリードしていかないように、再度見直しを行いたいと思う。LGBTQプラスアルファといわれる現代社会の中で、多様性を意識しながら、結婚すること、また、子どもを産み育てることだけが全てではないと考えている。計画策定にあたっては、あらゆる角度から物事を捉え、多種多様な人の意見を確認しながら事務局内で議論し、その上で、分科会委員の皆さんより意見を頂戴し、進めていきたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童相談所の立場として気になったのは、就学前児童の保護者対象アンケートで、子どもをみてもらえる親族等がない家庭が増加しているという点である。児童相談所は、虐待対応以外にも、家庭の事情でお子さんを預かることが多々ある。両親がいる家庭でも、例えば、母親が入院したが父親は仕事でみるできないというケースで預かることもある。また、ひとり親家庭の場合だと、親が病気になると子どもをみるできないという理由で、親族がいても預かるケースがある。この調査結果を見ても、そのような家庭が増えていることがわかるので、ま

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>だまだ児童相談所として果たす役割があるのだと感じた。しかし、こどもにとっては、家で過ごせることが一番だと思うので、児童相談所以外で補完できるサービスがあれば良いと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人的な感想だが、両親が登校前に仕事に行ってしまう世帯が多いということなので、登校するまでこどもたちだけで過ごしていることを思うと、何かサービス等を考える必要があるのではないかと感じた。 ・アンケートの回答率が低かったことで、母数は減ったかもしれないが、把握できたことは様々あると感じている。 ・昨年度アンケート調査を実施した際に、自身のこどもが小学5年生と中学2年生だったため、こどもと一緒にアンケートに回答した。学校で調査票を受け取った時には、先生から回答するようにと伝えられたのみで特に調査の目的や主旨については説明されなかったとのことだったので、そのあたりについて、もう少し説明があったら良かったと思う。 ・こどもとともにWEBで回答したが、途中でときもが「頑張れ」と応援してくれたので、こどもはそれに喜んで頑張って回答していたが、ボリュームが多くて途中で疲れていたため、やはりこどもが回答するには保護者の協力が必要だと強く感じた。 ・こどもをみてる親族等がそばにいない家庭が多いことが調査結果からわかったが、このことは現場にいても非常に感じることである。土日祝日にこどもと保護者のみで家にいて、こどもを楽しませてあげなくてはならないと悩んでいる保護者もいる。コロナは落ち着いたが、なかなか周りの人と繋がるのが難しい状況にあると思う。一方で、外に出る機会を求める人も増えているという印象もあるので、そのような人たちの居場所を作っていくことは非常に大切だと感じる。 ・母親のフルタイムへの就業希望が高まっているという結果が出ているが、もちろん働きたい方もいるが、働かざるを得ない方が多いのも事実である。本当はこどもと過ごしたいが、働かざるを得ない母親もいるため、調査結果の裏側にある声も意識しないといけないと思う。 ・夕食をこども一人で食べている、おにぎり1つだけ食べて塾に行く等の話を多く聞く。そのような状況を踏まえ、やはり小学生以上のこどもの居場所が必要であると改めて感じた。 ・川越市は児童館の数が少ないと思う。保護者に連れて行ってもらうのではなく、こどものみで行くことができる場所が必要だと強く感じている。こども食堂や、学習支援の場等、アンケート結果からもこどもの居場所の必要性が明らかになったが、自身としても本当に必要だと感じて

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に公園はあるが、ボールが使えない等の禁止事項が多く、自由に遊べないために家で過ごしているという声も聞くので、そのような既存の場所を活用し、子どもたちが過ごしやすい場所、地域と繋がり合える場所とすることが必要だと思う。 ・フルタイムで働くお母さんが非常に増えていることを実感している。多くの学校でこの4月に学童保育の増設があり、私が昨年度まで勤めていた学校でも、教室を転用して学童保育のための部屋にしたと聞いている。そのため、実態としても、働くお父さん、お母さんが多く、放課後一人になる子どもが多いということは明らかだと思う。 ・困窮層の子どもも多くおり、全員ではないが、教育格差を感じるが多々ある。塾に行くことが良いことだとは思っていないが、学習の機会が学校にしかなく、また食事也十分にとれていない等、困窮層の子どもには、そのようにマイナスだと思われる部分がある。 ・そのような困窮層の子どもが学校生活に入った時に、全員ではないが、学習意欲の低下が見られるケースもある。生活習慣が身につけておらず、食事也十分にとらないまま登校して1日を過ごす子どももいる。そのような子どもに、始業前に給食室の牛乳を提供するなど様々な支援を行っているが、これらの状況からも困窮層の子どもと一般層の子どもの格差を実感する。 ・子どもの居場所づくりの話が先ほどから話題になっているが、学校の課題の1つに不登校問題が挙げられる。学校に登校することが目標ではなく、自立が目標ではあるが、子どもたちを預かっている学校側としては、学校に安心して過ごせる場所を作りたいという思いが強い。各学校において様々な工夫を施し、校内学習室を新たに設置するなど、子どもたちが安心して過ごせる場所を作っており、学校外においても、そのような居場所があると、子どもたちは人と触れ合い、人の良さを感じながら成長できると思う。 ・学習も食事も大事だが、私はやはり人間関係を繋いでいくことが一番大事だと思う。その場所が学校ではなくても、地域の中で、地域の人と関わって、自分のことを大事にしてくれていると実感できる子どもは、将来自立していくことができると強く思う。 ・働くお母さんが増えたことで、保護者の送り迎えが原則である登校しぶりの子どもの送り迎えをすることができず、子どもが登校できなくなってしまってしまうケースがあり、そのことにとっても悔しい思いがある。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	<p>行政や福祉施設等の各種サービスに関する情報を提供して、何とか解決できないかと各学校も頑張っているところである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川越市民生委員児童委員協議会連合会主任児童委員部会に所属しており、同所属の関係で県の部会にも出席しているが、そこでも不登校の問題を議論している。議論の中で、こどもの居場所にもフォーカスするが、これという決め手になる居場所がなかなか見つからない。 ・遠くにどんなにすばらしい居場所があっても、こどもはバスや電車に乗ってまで行くことはないと思うので、結局はやはりこども自身の足で行けるような、家や学校のすぐ近くに居場所を作ることが大事だと思う。 ・例えば、北公民館に、放課後に実際に来ている子どもは10人いないと思われる。なぜそこに行かないのかというと、その場所に魅力がないからだと思う。施設に大人がいて安心だという点は良いが、そこで体を動かすこともできない、たくさんの本があるわけでもない、声をかけてくれる大人がいるわけでもない。 ・そのため、シルバー人材を活用するなどして、そのような場所に大人を配置し、こどもに声を掛ける体制を確立し、こどもが行きたいと思えるような場所ができれば良いと思う。 ・特に、夏休み等の長期休暇の時、両親が働いていて家にいない家庭や、どこにも出かけるような余裕がない家庭のこどもは、何をして過ごしているのかと心配になる。ここに行けば友達や自分を気にかけてくれる大人がいるというような場所を、こどもの身近に作ることであれば、こどもたちはきっと行きたいと感じると思う。そのようなこどもの居場所ができれば、こどもから大人に積極的に悩みも話してくれるのではないかと思う。 <p>[議題(2)]</p> <p>(仮称)川越市こども計画策定に関する諮問について</p> <p>事務局より机上配布資料である「諮問書」及び「検討依頼文書」に基づき、説明を行った。説明内容の概要は以下のとおり。</p> <p>川越市長より、川越市社会福祉審議会委員長宛に「(仮称)川越市こども計画の策定」について諮問があり、それを受け、川越市社会福祉審議会委員長から川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会会長に「(仮称)川越市こども計画」の内容について検討の依頼があった。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局からの説明のとおり、次期子ども計画の策定について、正式に川越市長からも検討するように依頼があったので、本分科会にて策定に向け、議論を進めていくことになる。 ・年明けになると思うが、本分科会でまとめたものについて社会福祉審議会委員長を通し、市長に答申することになる。 <p>[議題（3）]</p> <p>（仮称）川越市子ども計画の策定について</p> <p>事務局より資料2-1、資料2-2、資料2-3、参考資料1、参考資料2、参考資料3及び参考資料4に基づき、説明を行った。説明内容の概要は以下のとおり。</p> <p>（資料2-1）</p> <p>（仮称）川越市子ども計画の策定概要として、計画の名称、「子ども」の表記、計画策定の背景と主旨、包含する計画、現計画からの主な変更点、策定までのスケジュールの説明があった。</p> <p>（資料2-2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度第3回分科会において説明した資料をベースとしており、前回からの主な変更点として、令和6年度を始期とした「川越市障害者支援計画」及び「すこやかプラン・川越」が新たに策定された。当該計画において、医療的ケア児やヤングケアラー等、本計画にも明記すべき事項があることから、これらの計画と連携していく必要がある。 ・新たに取り組む必要がある主なものとして、「子ども誰でも通園制度」と「ヤングケアラー支援」がある。 <p>（資料2-3、参考資料2、参考資料3、参考資料4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川越市子ども計画策定にあたっては、子ども大綱及び埼玉県子ども計画（参考資料4）等を勘案することに加え、現在子ども家庭庁において策定を進めている「自治体子ども計画策定のためのガイドライン」（参考資料2）を参照する必要がある。 ・子ども基本法に則り、子ども政策の策定等にあたっては、子ども・若者から意見を聴取する必要がある。その際は、子ども家庭庁が策定した「子ども・若者の意見の政策反映に向けたガイドライン」（参考資料3）を参考に実施する。 ・上記に加え、子ども等の意見を反映させるための措置及び計画（素案）

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長	<p>作成までの流れについて説明があった。</p> <p>(参考資料1)</p> <p>「こども誰でも通園制度(仮称)」の創設へ向けた国の検討の方向性や、本市における検討状況等について説明があった。</p> <p>事務局より今後の方向性が示された。事務局の説明について、意見や質問はあるか。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の骨子案が早々に出てくる予定とのことだが、現行計画を大幅に変えていくのか、それとも現行計画を元にこどもの居場所の問題等を付け加えていくのか。大幅に変えていくことになると、予定とされている分科会の開催回数で議論をしていくのはかなり厳しいと感じる。 ・7月上旬に意見聴取を行うとのことだが、何を聞く予定なのか。 ・資料2-2で各計画との整合性を図らなければならないとしている。主として事務局で実施するものだと推測するが、主な関連計画では、活発な審議会も多いので、実際どのように整合を図るのか。本計画を先に進めて、他の計画をこちらに合わせてもらう場合、他の審議会委員が不満を抱くことも考えられる。例えば、こちらが素案を作成した後、関係する各審議会において意見をいただき、それを受けて改めてこちらでもう一度議論するという方法も考えられるが、そのためには調整期間が必要なのではないか。 ・これまでの議論を聞いていると、こどもの居場所が非常に大きなテーマになってくるように感じている。計画策定にあたり、当事者であるこどもや若者の意見を尊重することだったので、こどもの居場所についても、こども等がどのような居場所に魅力を感じるのか意見を聴く必要があると思う。 ・先ほど別の委員からも話があったが、不登校の問題も大きなテーマだと思う。川越市こども計画の中で、不登校の問題まで盛り込んでいくこととなると、意見聴取の内容にも影響が出るのではないかと思う。計画全体として何をどのように反映していくのかによって、今後の進め方が変わってくるのではないかと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、本市においては、現行計画である「第2期川越市子ども・子育て支援事業計画」に基づき、各種施策等に取り組んでいる。次期計画においても、原則これを踏襲していく予定である。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一方で、こどもまんなか社会という国の方針を受けて、こども・若者を中心に据えることと、次期計画においては、子ども・若者育成支援推進法に基づいた計画を内包するため、これらの点に関する事項については新たに加えていきたいと考えている。
会長	盛り込む内容によっては、現行計画の踏襲でも良いと思うが、全体を見直すという検討の余地を残しておいていただきたい。
委員	<p>当然見直すものもあると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は今年度で委員を務めて10年目になるが、当初からお願いしていたのは、学童保育の件である。今回のアンケートで多くの課題が見えてきたと思うので、今後、アンケート調査結果に即した取組みを進めてもらいたい。 ・私の所属している障害者団体連絡協議会に関連して、これまで、本分科会において、障害のあるこどもに関しての扱いは非常に薄かったと思う。次期計画を策定していくにあたり、関連計画との横串が入ったことは非常に良いことだと思う。障害児の数は少ないが、こども本人や家族はとても苦勞しているので、本分科会において、これからも様々な審議を進めていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・こども誰でも通園制度に関連して、日頃助産師として妊娠中から産後直後のお母さんや、赤ちゃんと接する中で感じていることについて話したい。 ・川越地区助産師会には、現在24名の助産師が登録しており、川越市から委託を受けて、3か所で産後ケア事業を行っている。お母さんの支払い金額は一回2時間あたり1,000円で、最大5回まで利用できる。事業として、まだあまり広く浸透はしておらず、リピーターの方がほとんどであるが、実際利用を求めている方は多いのではないかと感じている。 ・事業内容として、母乳ケア、授乳、メンタルケア等を主に行っており、時間が短く2時間で帰らないお母さんもいる。また、初産の方であれば、赤ちゃんと2人で来たり、旦那さんに送迎してもらったりして来られるケースが多いが、遠方の方でタクシーを使わざるを得ない方などは、利用ができていない状況にあると思う。加えて、2人目以降の出産の場合、助産師1～2人では上のこどもをみることができないので、そのこども

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	<p>を施設等に預けて来ないと利用できないという現状がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのような中で、こども誰でも通園制度があれば、上のこどもを預けて、母親が新生児と一緒に産後ケアに来ることができると周知できると思う。2026年度から本格実施とのことで、あと2年で実施するにはハードルが高いかと思うが、是非実現してほしい。 ・こども誰でも通園制度は、6か月から3歳未満のこどもが対象とのことだが、他の年齢に比べて0歳児の死亡が多いことや、出産して退院直後の母親の不安等を払拭するという点からも、今後、新生児から預けることができるシステムを検討いただければ幸い。また、その際には助産師の力を発揮できるかと思うので、ぜひ助産師会として大きく協力したいと思う。 <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は人権相談のみならず、教育相談の仕事も行っている。相談する場所がなく、一人で悩んでいる方が大勢いるということを経験している。相談する人がいない中で、仕事の負担も多いので、こども誰でも通園制度のような事業があると非常に助かるのではないかと思う。 ・コロナ以降、こどもが地域の人と会ったり、こども同士で会ったりする機会が減り、家の中にいて、不登校になるという実態がある。こどもの居場所として、市民センター、学童保育、放課後子ども教室等を活用して、地域との関わり、人との繋がりが深まっていけば良いと思う。 <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果（資料1）の3頁で、フルタイム勤務の希望が実現できない母親が増加しているとの記載があるが、結果をよく見ると、これまで無回答だった部分が明確化されたのだと思う。 ・その中で、フルタイム勤務への希望を実現できないことが良くないのか、については、先ほど別の委員からも意見があったが、解釈の仕方が大事になると思う。例えば、パート・アルバイト等のフルタイム以外の就労を続けることを希望する母親についても、36.8%から44.3%に増えており、母親として育児と仕事の間で葛藤している部分があるのではないかとと思われる。 ・国を主語にして少子化対策を考えると、結婚したくないというのはネガティブになるが、個人を主語にすると、結婚はせず、一人で生きていきたいというのは決してネガティブではない。主語を明確にした上で、何をもちょう良い悪いと決めるのか、明確に示さないと誤解が生じてしまうと思う。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化している現代ではあるが、父親はどちらかという働くことが義務付けられていて、母親はどちらかという子育てに重きを置くという価値観がまだまだあるのだと感じる。 ・幼稚園でも、もう少し早い時間から登園させられないかという相談がある。日本は、24時間安心安全に働くことができる環境にあるが、そのために両親ともに朝早く出勤して、夜遅く帰宅するという状況を作ってしまうのだと感じる。このことから、父母の勤務先に対して、就労時間をずらす等により、こどもの見送り、お迎えをすることができる体制作りを義務付けていくことが大切なのではないかと思う。 ・報道等で、他の自治体において7時からこどもを受け入れている学校もある一方で、先生方の労働環境を守るために8時半までは登校して来ないように案内している学校もあり、現場が混乱しているという話も聞いたことがある。両親が就労時間をずらすことができれば、この問題も解決すると思うが、特にひとり親家庭では難しいと思われるため、そのあたり手厚く補助が必要なのではないかと感じた。 ・アタッチメント（愛着形成）について、こちらも最近よく耳にしているが、要するにこどもは理屈ではなく、保護者を含め、近くの大人への依存から始まるということだと思う。しっかり大人に見守られ、安心できる環境であるからこそ、こどもは様々なことにチャレンジできる。 ・依存する対象は、保護者から始まり、保育園・幼稚園の先生に変わり、その後に学校の先生に変わっていく。こども自身が、少しずつ、色々な人を受け入れながら、安定的に人格を形成していくことを考えると、あちらこちらに振り回されるように様々なところにこどもが預けられてしまうと、こどもたちの愛着形成において少し心配ではある。 ・しっかりと愛情を注がれて、情緒の面で安心安定しているからこそ、外で活躍することができると思う。そのことを考えると、家庭での保護者の役割の明確化、こどもの受け入れ先の幼稚園・保育園・小中学校の体制作り・土台づくりは必要なことだと思う。 ・こどもの居場所として、既存の施設を利用するというのは、とても良い発想だと思う。実際、私の園では、園庭開放を降園後の時間帯に必ず行っている。通っている幼稚園だからこそ愛着があり、保護者もこどもを連れて来る。先ほど別の委員から意見があったように、愛着がない、馴染みがない施設だとこどもは行く気は起きないと思う。そのため、自分の通っている学校は愛着・馴染みがあるので、放課後に見守る大人がいることが前提だが、教育委員会と連携を図り、福祉の観点から校庭や教室開放を行うことができれば、こどもも保護者も安心して利用すること

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>ができるのではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども誰でも通園制度は、もっと早い段階から、買い物やリフレッシュなどに利用することができたら良かったと思う。育児と家事は全く別物であり、育児にはやはり時間が取られる。少しでもこどもを預けて、自分の時間や、家事に充てる時間ができることはとても良いことである。上の子が通っている保育園、認定こども園、幼稚園で利用できるような形になれば、より利用ニーズは高まると思う。 ・自分の子どもが昨年度小学5年生で、学校でアンケートに回答してきた。担任の先生が、自分たちの意見が川越市のこども計画に反映されるということを説明してくれたようなので、学校によって対応は異なっていたものと思う。結果なので致し方ないが、小中学生の回答率は、もう少し高ければ良かったと思う。 ・こどもの居場所について、居住地である高階地域では、市民センターに児童館が併設されている。利用可能なこども全員が利用すれば良いと思うが、学校からこどもに校区外にこどもだけで行ってはいけないと指導が行われているようで、校区外であっても保護者の了承のもと、利用しているこどももいれば、学校からの指導を守って利用できていないこどももいる。せっかく児童館という居場所があるので、夏休み等の学校が休みの日には、幅広くこどもたちに利用してもらいたいと思う。 ・今回のこども計画は、こどもや若者の声を重視し、取り込みながら作成していくとのことなので、今までよりももっと身近に感じられ、こども・若者の声が反映され、実態に即した計画となるよう努力していきたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは、質問のボリュームがあるにも関わらず、回答率としては高かったという印象を持っている。一方で、アンケートを通じて出した自分たちの意見がどのように反映されるのか等のフィードバックが具体的にわかるような情報発信があれば、もう少しアンケートに協力してくれるようになるのではないかと感じた。 ・アンケート調査により様々な課題や、保護者等のニーズが見えてきたので、それに対して具体的に支援を行っていくことが必要だと思う。 ・また、今後、定期的にアンケートを実施するのであれば、父親の育児休暇について掘り下げて聞いても良いのではないかと考えた。育児休暇を取得したことで精神的に追い込まれてしまう父親がいるという話も聞くので、このことについても議論していく必要もあるのではないかと考

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども誰でも通園制度は、現場の環境を見ていると現実的には難しい問題だと感じている。今日も何名かの委員からは、必要な事業だという話もあったが、園児が少なくなってきたおり、保育園のあり方を変えていかなければならない中で、このような新しい改革に取り組む必要はあるとは思う。 ・リフレッシュ目的の一時預かりを少し増やすという形で徐々に実施していくのが良いかと考えている。現場は先生の人数が少ない中で対応している状況にあり、現場が潰れてしまうことを危惧している。そのため、現場の意見を吸い上げ、現場の方を大切にしながら進めてほしいと思う。 ・御意見のあった関連計画との整合性をどのように図るのかという点について、こども分野に関しては、本分科会がリードしていく立場にあると理解している。関連計画との計画時期がずれるため、本分科会で策定した計画内容をベースに、関連計画にそのエッセンスを引き継いでもらうといった調整は可能かと思う。 ・基本的には、現行計画をある程度ベースにしつつ、こども誰でも通園制度、ヤングケアラー、こどもの居場所づくりという部分を計画の中に入れ込んでいくという体系をイメージしているところである。 ・現在のこども誰でも通園制度の検討状況は、今年の9月までに市の方針を決定し、その上で来年度の予算要求を行う。なお、その際には、私立保育園協会等の関係機関と協議を進めなくてはいけないと考えている ・先ほど委員からの御提案にもあった「リフレッシュ目的の一時預かり」に関連して、現在、保育ステーションにおける「リフレッシュによる一時預かり事業の利用」は月1回だが、それを月2回に増やす方向で検討している。また、より多くの方が気軽に利用できるように、添付書類の提出なしで利用できるような仕組みに変えていきたいと考えており、これらの見直しを今年の10月からスタートできるように検討を進めている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・他の関連計画との整合について、本分科会が先陣を切って計画策定を進めるのは良いが、ジェンダーの問題は配慮が必要である。先ほど、別の委員からの意見の中で、育児休暇は女性が取得するものだ等の話があったが、そのあたりの意見が盛り込まれるとすると、男女共同参画の関係の審議会が承認するとは考えにくい。そのあたりの調整は慎重に行う方

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>が良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の計画でも同様であるが、関連計画との整合をどのように図るかという点について、素案や原案等を事前に担当課と調整を行う予定である。そのため、御意見の点についても、男女共同参画基本計画を所管する男女共同参画課と事前に調整を図ることとなる。その点も含め、特にジェンダー等のデリケートな問題について、市の方向性に矛盾が生じないよう、十分留意してまいりたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠・出産は、女性にはあるが男性にはない機能的な部分である。例えば、産後の育児は、交通事故に遭った後に、子育てをしているような感じであるとよく耳にする。妊娠、出産、授乳は、医学的な見解等をベースに、この時期はこのようなした方が良いということは、ある程度女性の権利として必要だと思う。 男女共同参画で求められる男女平等とは、何を以て平等とするのかを考える必要がある。その点で、私は、経済的な観点ばかりが中心的になりすぎているように感じており、男女平等については、そのあたりを突き詰めて考えていかないと、女性ばかりが産んで、育てて、働いてと、とても大変な状況に追い込まれているように感じる。
会長	<p>それでは、資料2-1の次期計画の策定概要、また資料2-3のこども・若者への意見聴取等については、大まか了承いただけたものとする。事務局は、委員の意見を踏まえて進めてほしい。</p> <p>4 報告</p> <p>[報告(1)]</p> <p>川越市こども家庭センターの設置及び運営開始について</p> <p>事務局より資料3に基づき、説明を行った。説明内容の概要は以下のとおり。</p> <p>(資料3)</p> <p>令和5年度第5回分科会での報告事項のとおり、川越市こども家庭センターを設置し、令和6年4月1日より運営を開始した旨を報告するとともに、相談窓口、対象、業務内容について説明があった。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>[報告(2)]</p> <p>保育ステーションにおける送迎保育事業・一時預かり事業の見直しについて</p> <p>事務局より資料4に基づき、説明を行った。説明内容の概要は以下のとおり。</p> <p>(資料4)</p> <p>川越市保育ステーションにおける送迎保育事業及び一時預かり事業を見直す趣旨及びその内容等について説明を行った。</p> <p>なお、主な見直しの内容としては、①送迎保育事業と一時預かり事業の位置付け、②利用対象者の見直し、③利用手続の見直し、④使用料等の見直し 等である。</p> <p>4 その他</p> <p>事務局より事務連絡を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本分科会の各議題等への意見や質問等がある場合、会議シートにて、5月23日(木)までにメール、郵送、FAXにて提出をお願いしたい。 ・第2回及び第3回分科会の開催日時・会場について案内があった。第2回分科会は7月2日(火)14時から、第3回分科会は8月9日(金)14時からであり、会場は両日ともに第1・第5委員会室を予定しており、日程が近づいたら改めて開催通知で案内を行うとした。 <p>5 閉会</p>